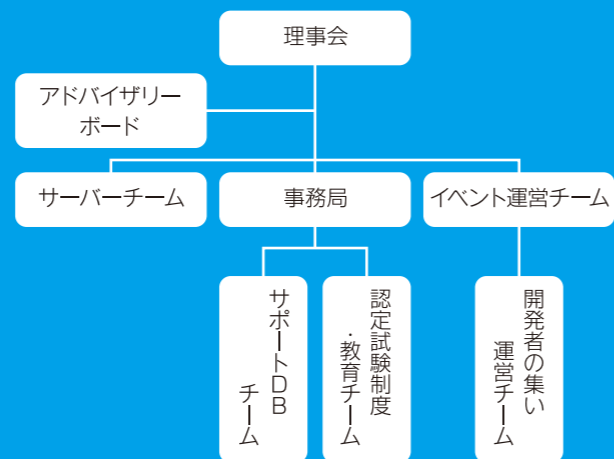


## Seasarファウンデーションの体制

OSS開発と配布を活動内容としてきた任意組織「Seasarプロジェクト」が特定非営利活動促進法に基づいた法人「Seasarファウンデーション」の設立を内閣総理大臣へ2005年8月に申請し、2005年12年に認証されました。

皆様のおかげで、認証から3年以上の月日が経ち、組織も大きくなりました。誠にありがとうございます。

代表理事：橋本 正徳(株式会社ヌーラボ)  
理事：渥美 俊英(株式会社電通国際情報サービス)  
理事：栗原 傑亨(株式会社グルージェント/サイオステクノロジー株式会社)  
理事：千葉 滋(東京工業大学 教授)  
理事：米林 正明(株式会社Abby)  
理事：古川 正寿(株式会社フルネス)  
理事：丸山 不二夫(早稲田大学 客員教授)  
監事：宮原 徹(株式会社びぎねっと)  
事務局：杉山 隆志(株式会社フライトシステムコンサルティング)  
事務局：松前 宣博(株式会社フライトシステムコンサルティング)  
アドバイザリーボード：喜多 伸夫(サイオステクノロジー株式会社)  
アドバイザリーボード：中山 義人(株式会社NTTデータ イントラマート)



# Seasar Foundation

特定非営利活動法人Seasarファウンデーションのご案内

## 本年度のイベント

6/13 Seasar Conference 2009 Spring

9/12 Seasar Conference 2009 Autumn

## 寄付のお願い

Seasarファウンデーションでは、オープンソース・ソフトウェアの開発や、保守・メンテナンスを支援するための基金として、企業様からの寄付などにより「Seasar基金」の設立を進めております。

「Seasar基金」では、まず始めに、国内で多く利用されているSeasar2のマニュアルや、ガイドブックなどのドキュメントの整備や、無償コースウェアの提供、テクニカルサポート、認定制度などに着手いたします。

また今後も、年に2～3回のカンファレンスや、サーバの維持メンテナンスを継続的にまいります。現在稼働している情報システムで使用されているSeasar2の保守・メンテナンスや、これから開発される情報システムで使用されるであろうSeasar2

の開発支援を行い、さらに、OSS開発者やコミュニティをエンカレッジし、皆様安心してSeasar2をご利用できるように努力いたします。この活動に、興味を持たれた方や、支援を頂ける企業様は、是非、「Seasar基金」にご協力ください。

### 寄付についてのお問い合わせ

東京都港区虎ノ門4-1-28虎ノ門タワーズ11F  
株式会社グルージェント内

電話：03-6402-4650(10時～19時、土日祝日休み)  
ファクス：03-6402-4651  
メール：inquiry@seasarfoundation.org

# ごあいさつ

Seasarファウンデーション 代表理事  
橋本正徳 [株式会社 ヌーラボ]

「The Seasar Project」が誕生したのが、2004年。それから、5年が経過して、2009年6月現在、175名のコミッターを抱える大きなオープンソース・ソフトウェア開発者コミュニティとなりました。

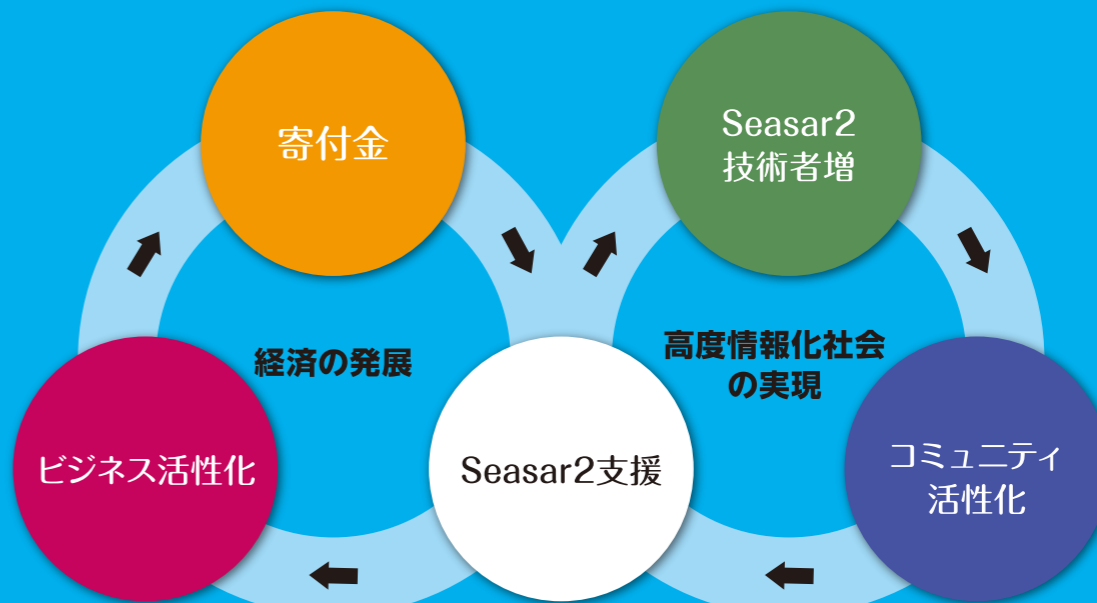
技術の発達は早いもので、メインプロダクトである「Seasar2 (S2Container)」が、実現している「DIコンテナ」という仕組みも、登場したときは「新しい技術」として、注目されていたのですが、現在では、多くの方々に利用され、「枯れた技術」と呼ばれるようになっています。また、国内のオープンソース・ソフトウェア(以下OSS)のメリットも、広く理解されるようになり、例にとると、(少し古い話ですが)2007年のIPAの地方自治体に置くOSSへの期待調査では、「業務分類やシステム階層分類などに応じてOSSを採用していくべき」という意見が85%を超えを積極的に採用したいという結果がでています。これからも、国内の情報システムを支えるテクノロジーとして、OSSは多くの技術者に使われて、生活の基盤として利用される情報システムの、縁の下の力持ちとして存在し続けるのでしょう。

しかしながら、そのほとんどは、海外で作られたOSSに頼っているように思えます。その仮説が正しければ、国内の情報システムのほとんどの部分が、海外製品で構築されていることになり、日本はさながら、ソフトウェア輸入大国のようになっていることでしょう。

Seasarファウンデーションは、その状況を踏まえて、国内で開発されたOSSの知的財産権を継続的かつ、透明性高く運用管理し、国内はもとより、世界中に影響力を発揮させることに挑戦いたします。そのために、OSS開発者の連携感を醸成し、勇気づけ、コミュニティを活性化させます。また、コミュニティとして、良い成果ができましたら、Seasarファウンデーションにみならず、活動の成果を他コミュニティへもお伝えし、日本のIT業界全体の底上げの実現を目指します。

小さなことの積み重ねになるとは思いますが、幸いにして、皆様のご協力を頂いていることを、私たちの励みとして、活動いたします。また、これからも皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

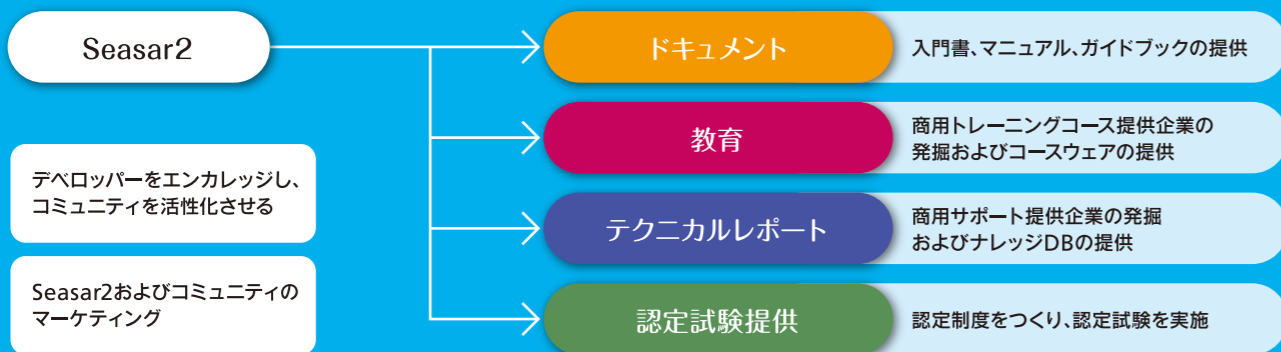
# Seasarファウンデーションは、



# さらに大きく成長します!



## Seasar2発展のための支援活動



## Seasar2の製品をメンテナンス・サポート

Seasar2は開発から5年が経ち、現在多くの情報システムに導入されています。「Seasar基金」は、将来的には、オープンソース・ソフトウェアを開発する個人および団体に対して、おもに人件費を直接支援することを想定しています。それは、オープンソース・ソフトウェア開発者の多くは昼間仕事をして、夜や土日のプライベートな時間を削ってソフトウェアを開発しているのが現状なので、開発者を経済的に支援することで、平日の昼間に開発ができるようにしたい」という気持ちが発端でした。しかしながら、企業様から基金を募るにあたり、「Seasar2」と関係の薄いところに力を入れても理解が得られない、まずは「Seasar2」の利用者から期待をされているメンテ

ナンス・サポートをし続けることに力を入れるべきというところに、到達いたしました。

そこで、「Seasar基金」で実施する事業として、まず「ドキュメント」「教育」「テクニカルサポート」「認定試験制度」の4事業に着手します。例えば、教育であれば教材はオープンソースウェアとして無償で公開し、企業がこのコースウェアを使い有償のセミナーを実施するといった形態を検討しています。また、「テクニカルサポート」では、Seasar関連プロダクトの利用者からの質問窓口である「メーリングリスト」のこれまでのログを整理し、「ナレッジデータベース」を構築することを検討しています。

株式会社電通国際情報サービス  
□□□□□

ジョバンニは、口笛を吹いているようなさびしい口付きで、檜のまっ黒にならんだ町の坂を下りて来たのでした。坂の下に大きな一つの街燈が、青白く立派に光って立っていました。ジョバンニが、とととと電燈の方へ下りて行きますと、いままでだけもののように、長くほんやり、うしろへ引いていたジョバンニの影ほうしは、だんだん濃く黒くはつきりなって、足をあげたり手を振ったり、ジョバンニの横の方へまわって来るのでした。(ほくは立派な機関車だ。ここは勾配だから速いぞ。ほくはいまその電燈を通り越す。そうら、こんどはほくの影法師はコムバスだ。あんなにくるっとまわって、前の方へ来た。)とジョバンニが思いながら、大腿にその街燈の下を通り過ぎたとき、いきなりひるまのザネリが、新しいえりの尖ったシャツを着て電燈の向う側の暗い小路から出て来て、ひらっとジョバンニとすれちがいました。「ザネリ、烏瓜ながしに行くの。」ジョバンニがまだそう云ってしま

サイオテクノロジー株式会社  
□□□□□

ジョバンニは、口笛を吹いているようなさびしい口付きで、檜のまっ黒にならんだ町の坂を下りて来たのでした。坂の下に大きな一つの街燈が、青白く立派に光って立っていました。ジョバンニが、とととと電燈の方へ下りて行きますと、いままでだけもののように、長くほんやり、うしろへ引いていたジョバンニの影ほうしは、だんだん濃く黒くはつきりなって、足をあげたり手を振ったり、ジョバンニの横の方へまわって来るのでした。(ほくは立派な機関車だ。ここは勾配だから速いぞ。ほくはいまその電燈を通り越す。そうら、こんどはほくの影法師はコムバスだ。あんなにくるっとまわって、前の方へ来た。)とジョバンニが思いながら、大腿にその街燈の下を通り過ぎたとき、いきなりひるまのザネリが、新しいえりの尖ったシャツを着て電燈の向う側の暗い小路から出て来て、ひらっとジョバンニ

株式会社NTTデータ イントラマート  
□□□□□

ジョバンニは、口笛を吹いているようなさびしい口付きで、檜のまっ黒にならんだ町の坂を下りて来たのでした。坂の下に大きな一つの街燈が、青白く立派に光って立っていました。ジョバンニが、とととと電燈の方へ下りて行きますと、いままでだけもののように、長くほんやり、うしろへ引いていたジョバンニの影ほうしは、だんだん濃く黒くはつきりなって、足をあげたり手を振ったり、ジョバンニの横の方へまわって来るのでした。(ほくは立派な機関車だ。ここは勾配だから速いぞ。ほくはいまその電燈を通り越す。そうら、こんどはほくの影法師はコムバスだ。あんなにくるっとまわって、前の方へ来た。)とジョバンニが思いながら、大腿にその街燈の下を通り過ぎたとき、いきなりひるまのザネリが、新しいえりの尖ったシャツを着て電燈の向う側の暗い小路から出て来て、ひらっとジョバンニ